

# Next Age

次世代のチーム！

次世代のチームやリーダーの本質とは何か。チームマネジメントやメンバーシップに詳しい日本ラグビーフットボール協会・中竹竜二氏が、各界をリードするゲストを招き、分析する。

## 成功を捨てる恐怖に打ち勝つ 類いまれなる学び手

「独占企業であるより、競争があったほうがいいですよね」。小山宙哉氏、三田紀房氏など人気作家を擁する作家エージェント会社、コルクの代表、佐渡島庸平氏は真顔でそう言った。そう言い切れるリーダーが世界にどれだけいるだろうか？

佐渡島氏は、講談社勤務時代、『ドラゴン桜』『宇宙兄弟』などの大ヒット漫画を世に出した。テレビアニメ化、映画化によって、それらの作品はさらに多くの人の心を震わせた。そして2012年10月に講談社を退職、コルクの設立に至る。

「独占したほうがラク、と思わないんですか？」という私の問いかけに、佐渡島氏は答える。「どんな視点でモノを見るかです」と。「日本には作家エージェントはまだ数が少ない。僕らだけしかないければ、僕らの価値が顕在化しない。もし、そこに多くの競争がいて、僕らに編集者としての実力がよ

今号のGUEST

未来の出版業界を牽引する

**佐渡島庸平氏**

Sadoshima Yohei\_2002年講談社入社。『バガボンド』（井上雄彦）、『ドラゴン桜』（三田紀房）、『働きマン』（安野モヨコ）、『宇宙兄弟』（小山宙哉）などの編集を担当。2012年に講談社を退社し、コルクを設立。



りあれば、より高い値段がつくのです」

口先だけではない。実際に、コルクの社員が辞めて、コルクの契約作家とともに独立することをよしとする。さらに現在、弁護士と相談し、理想の作家エージェントのあり方をネットに公開して、誰もが参入できる仕組みを作ろうとしている。いうなれば、「オープンソース化」である。日本の出版業界の市場規模は約1兆7000億円。映画業界は約7000億円。トヨタ1社の売り上げが20兆円以上だから、それらの規模はごく小さい。しかし、多くの人が参入し、そこで知恵と力を出し合って切磋琢磨すれば、「コンテンツ産業で日本が世界をリードする可能性は十分にあり得る」（佐渡島氏）と、未来を見据える。

このような「オープンソース化」にはリスクが伴うが、そのリスクも彼にとっては経営の重要なエレメントである。「企業のサイズは、経営者が恐怖を乗り越えた数に比例する」というのが彼の持論だからだ。

佐渡島氏は、「講談社退職により、安泰の人生を捨てる」という恐怖に打ち勝った。若くして亡くなった友人の仕事への思い、親交のある堀江貴文氏の「これからは作家エージェントの時代」という言葉、『宇宙兄弟』が当初の想定より売れなかったことなど、周辺で起こるあらゆる事象を紡いだ結論が、独立起業だった。このように、常に成功体験を一切ゼロにして、新たに学び直す態度があるからこそ、多くの人にはたどり着けない視点に立てる。「学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならない」。サッカー・フランス代表元監督のロジェ・ルメール氏の有名な言葉である。チームを引っ張るリーダーは、類いまれなる学び手でなければならない。激変の時代こそ、佐渡島氏のようなリーダーが求められている。

\*本企画Web版では、佐渡島氏が目指す新しいコンテンツビジネスの姿について、より詳しく言及しています。<http://www.works-i.com/>の「機関誌Works」のページからご覧ください。

ADVISER



**中竹竜二氏**

日本ラグビーフットボール協会  
コーチングディレクター

Nakatake Ryuji\_早稲田大学人間科学部卒業後、渡英。レスター大学大学院社会学修士課程修了。三菱総合研究所を経て、早稲田大学ラグビー蹴球部監督、ラグビーU20日本代表監督を歴任。フォロワーシップ論提唱者の1人。